

(別紙様式3)

### 令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書

学校番号 54

学校名 愛知県立 一宮北 高等学校

校長氏名 久保田 竜弥

研究責任者職・氏名	教諭・増井健一	事務担当者職・氏名	主任・村松憲道
研究テーマ	主体的・対話的で深い学びの推進及びICTの適切な活用		
本年度の研究目標	(1) ICTを活用した効果的な指導方法や授業展開を研究し、実践する。 (2) 総合的な探究の時間などで、生徒の主体性を発揮できる機会を増やし、対話的な学びを促す工夫を検討する。 (3) 公開授業及び研究協議会等を通じて振り返りを実施し、改善につなげる。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容		備 考 (対象生徒等)
6月6日 ～6月17日	授業研究週間（職員間の授業参観・意見交換）		
6月9日	あいちラーニング推進委員会（研究計画の作成）		
6月10日	学校評議員会		
6月14日	本事業に係る学校訪問（外国語・数学）		
6月16日	あいちラーニング推進委員会（研究計画の作成）		
6月23日	あいちラーニング推進委員会（研究計画の策定）		
6月30日	研究計画書及び予算執行計画書の提出期限		
随時	あいちラーニング推進委員会（研究実施計画の検討及び評価）		
7月21日	第1回連絡協議会		
7月25日	ICT支援員による教職員向け研修		
10月24日 ～11月4日	授業研究週間（職員間の授業参観・意見交換）		
11月8日	一宮西高校（重点校）における公開授業及び研究協議会 一宮商業高校（重点校）における公開授業及び研究協議会		
11月15日	木曾川高校（重点校）における公開授業及び研究協議会		
11月22日	本校における公開授業及び研究協議会		

1 2月 2日 2月 24日	第2回連絡協議会 学校評議員会（報告及び評価）	
研究成果の評価及び普及・還元に関する実績		
<p>第1 公開授業及び研究協議会について</p> <p>1 実施日 11月22日（火）</p> <p>2 日程</p> <p>13:00～13:20 受付（玄関）</p> <p>13:20～14:05 全体会（図書室）</p> <p>13:20～13:30 校長挨拶・助言者紹介（本校校長）</p> <p>13:30～13:35 本校のこれまでの取組（本校教頭）</p> <p>13:35～14:00 講話（名古屋大学 柴田 好章 教授）</p> <p>14:00～14:05 諸連絡（本校教務主任）</p> <p>14:15～15:05 授業参観（各教室）</p> <p style="padding-left: 2em;">日本史B、数学Ⅲ、英語コミュニケーションⅠ</p> <p>15:20～16:10 研究協議（図書室）</p> <p style="padding-left: 2em;">はじめに（本校教頭）</p> <p style="padding-left: 2em;">教科毎に分かれて 授業者実践者から報告</p> <p style="padding-left: 2em;">質疑応答・研究協議</p> <p style="padding-left: 2em;">15:45～ 助言者より総評</p> <p>15:55～ 総評（柴田 好章 教授）</p> <p style="padding-left: 2em;">校長謝辞</p> <p>第2 地歴公民科研究報告</p> <p>1 はじめに</p> <p>平成30年告示の学習指導要領において、地理歴史科で育成を目指す目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と記載されている。</p> <p>具体的な育成目標は次の3点である。</p> <p>(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>(1)については、「知識・技能」の育成、(2)については「歴史的（地理的な）思考力や判断力・表現力」の育成、(3)については「学びに向かう力・人間性」の3観点に分類できよう。上記の(1)～(3)の力が身に着くように、本校の地理歴史科では、歴史総合、日本史B、世界史Bの授業を実施しているが、授業時の史資料の活用や生徒間の言語活動の充実が不十分であり、課題を抱えている。また、ICTの活用に取り組み始めているものの、生徒の興味・関心を高めさせることに終始しており、学習意欲の向上につながる効果的な実践につながっていない。</p> <p>2 研究の目的</p> <p>(1) ICT機器を積極的に活用し、効果的な知識の伝達を図り、深い理解を促す指導方法や授業展開を研究して実践する。</p> <p>(2) 歴史的思考力をもとに、事象の背景や事象間のつながり、他地域や後世への影響を比較しながら考察できる指導方法や授業展開を研究して実践する。</p>		

(3) 史資料を適切に活用し、情報を的確に読み取り、自分の言葉で分かりやすく他者へ伝えたり、表現できる指導方法や授業展開を研究して実践する。

### 3 実践例

#### (1) 3年日本史B 「占領政策の転換」

##### ア 目的

(ア) ドッジ＝ラインの結果不況が深刻化し、中小企業の倒産や人員整理が強行されたことを理解させる。

(イ) 労働者への抑圧や共産主義者の追放から、対日占領政策が転換したことに気付かせる。

(ウ) 占領政策の転換内容を復習しながらまとめさせる。

(エ) 占領政策が転換した理由を、国際情勢を関連付けて考察させる。

##### イ 授業実践

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点方法
導入 3分		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を復習する。</li> <li>・経済政策の結果、インフレが収束したことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人かの生徒に発問する。</li> <li>・物価のグラフを見せる。</li> </ul>	
展開 44分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策の結果</li> <li>・国鉄三大事件</li> <li>・共産主義弾圧</li> <li>・逆コース</li> <li>・経済政策</li> <li>・対日占領政策の転換理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策の結果不況が深刻化し、中小企業が倒産したり人員整理をおこなったことを理解する。</li> <li>・国鉄三大事件の概要を理解する。</li> <li>・事件後から、政府は共産主義者への対応を大きく変化させたことを理解する。</li> <li>・占領初期の目標に逆行する政策をまとめる。</li> <li>・占領初期と転換後の経済政策をまとめる。</li> <li>・対日占領政策の転換理由を考察し、周りと相談しながら理由をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デフレ後の企業の動きを理解させる。</li> <li>・事件の概要を説明する。</li> <li>・人員整理後に起こった事件という点から、事件に関わっている人物を連想させる。</li> <li>・共産主義に関する占領初期の政策と事件後の政策を比較させ、対日占領政策が転換したことに気づかせる。</li> <li>・逆行する政策をまとめさせ、占領政策を転換した理由を考察させる。</li> <li>・経済政策がどのように変化したのかを理解させ、占領目標を経済の自立化に移行した理由を考察させる。</li> <li>・共産主義者への対応と経済政策が転換したことに気づかせ、占領政策の転換が「共産主義」と「国力」に関係していることを示す。</li> <li>・ヒントを出しながら、冷戦の影響が占領政策を転換させたことに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対日占領政策の転換理由を積極的に考察し、まとめることができる【思考・判断・表現】</li> </ul>
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の復習</li> <li>・次回予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の復習をし、次回予告をする。</li> </ul>	

次の目標は「**経済復興**」  
経済の自立化をはかるために様々な政策を実行

経済政策をまとめてみよう！



日本が再び脅威にならないように  
生産量抑えてたはずなのに、  
なぜ経済の自立を望むの？

### ○2つの疑問

- ・なぜ非軍事化・民主化と逆の政策をするの？  
→なぜ**共産主義**を取り締まるの？
- ・なぜ経済の自立化を望むの？

↓  
Q. なぜ1948年以降から、対日占領政策を  
転換したの？

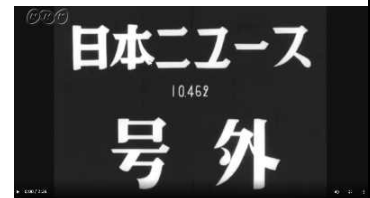
今回の授業で生徒に最も考えさせたかったのは「なぜ1948年以降に対日占領政策を転換したのか。」という問いである。ただ、アメリカの思惑、国際情勢などを考慮して考える必要があるため、ただ考えさせるのではなく、「共産主義への対応」と「経済の民主化」というポイントに絞って、占領政策が転換した理由を考察させることにした。

共産主義への対応と、経済政策を占領初期と1948年以降でそれぞれ書き出させ、どう変化しているのかを考えさせながら授業を進めた。机間巡視をしながら生徒の様子を確認すると、最初は戸惑っていた生徒も友人に聞いたり、プリントや教科書から探したりなどして意見を書き出していた。最後のまとめで転換理由を考えさせると、予想していた以上にスムーズに意見を書いていた。焦点を絞って生徒自身に一つひとつ答えを書き出させたことで、復習もでき思考が整理できたのだと感じた。

### ウ 課題

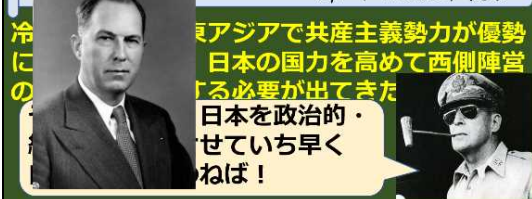
「ICTの活用」そのものが目的なのではなく、「主体的・対話的で深い学び」のために「ICTを適切に活用する」ということに重点を置いて授業を進めた。授業では、普段からICT機器を使用しており、当時のニュースや演

説など、実際の映像を活用して当時の様子や雰囲気を実感できるように努めている。今回は「下山事件」のニュース映像を流したが、動画が始まると生徒たちは真剣に見ており、後ろの席の生徒は身を乗り出している様子もみられた。ただ説明するのではなく、動画を流すことで、当時の様子を想像しやすくなり、印象にも残りやすい。それが、歴史的背景や意義などを捉えやすくすることに繋がるのだと改めて感じた。



### ☆なぜGHQは対日占領政策を変えたのか？

「日本を極東における共産主義の防壁にする。」  
byロイヤル陸軍長官



な手段であると感じた。

これからは、教えていただいたことをそのまま活用するのではなく、自身の中に落とし込んで創意工夫を加えて実践できるようにしていきたい。また、「R80」を教えていただいた。「リフレクション」と「リストラクチャー」をするだけではなく、文章の構成等にも気を付けながら今後の授業に臨みたい。

多くの先生方に参観していただき、貴重なご意見をいただいた。この経験を糧にしてより一層「生きた授業」を突き詰めていきたい。

### (2) 3年世界史B 「アヘン戦争と欧米諸国との条約」

#### ア 目的

- (ア) 周囲の生徒と意見交換しながら、三角貿易の実態を適切に模式図にまとめさせる。
- (イ) アヘン戦争の経過と中国の開港を、地図を活用しながら理解させる。
- (ウ) ロシアの東方進出をウラジヴォストークの写真スライドを活用して、興味・関心を高

めさせながら理解させる。

イ 授業実践

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価の観点と評価方法
導入 (5分)	イギリス産業革命と紅茶	イギリスの工場労働者のエネルギー源として普及した飲み物は何か考える。	イギリスで茶の需要が高まったことに留意させる。	
展開 (40分)	三角貿易の実態	周囲の生徒と意見交換しながら、三角貿易の実態を模式図にまとめる。	銀流出による貿易赤字を打開するため、三角貿易が実施された点に留意させる。	三角貿易の実態を適切に模式図にまとめることができる。 【資料活用の技能】
	アヘン戦争と中国の開港	アヘン戦争の経過と中国の開港を地図を活用しながら理解する。	重要な都市や地名は地図上で確認させる。	アヘン戦争の経過と中国の開港を理解できる。 【知識・理解】
	アロー戦争とロシアの東方進出	アロー戦争の経過とロシアの東方進出を理解する。	ロシアの東方進出は、ウラジヴォストークの写真スライドを活用して興味・関心を高めさせる。	写真スライドに興味・関心を持って見ることができる。 【関心・意欲・態度】
まとめ (5分)	本時のまとめ 次回の予習プリントの配布	本時の内容をふりかえる。		

普段から生徒にとって身近なモノや出来事から、世界史の内容につなげるように努めている。今回の実践では、紅茶を題材としてイギリス産業革命に話をつなげ、茶の需要の高まりからイギリス・清（中国）間の貿易が拡大した点を理解させた。そして、イギリスが貿易赤字を解消するために、イギリス・インド・清の間で三角貿易を始めたことを段階を踏んで押さえさせた。

今年度は特に授業内での言語活動の充実を意識しており、三角貿易の模式図を周囲の生徒ともに話し合いを通してまとめさせた。少人数の授業であり、座席も自由に座らせているため、仲の良い生徒同士で固まっており、意見交換はしやすい環境にある。机間巡視をして所々助言をしながら、模式図をまとめさせることができた。

この他、史資料の活用も授業時に意識している点である。今回はアヘン戦争でのイギリス軍の侵攻経路と条約締結地、割譲地、開港地を地図を活用して把握させた。ロシアの東方進出は、旅行で訪れたウラジヴォストークの写真スライドを活用して、生徒の興味・関心を高めさせながら理解できるように留意した。

ウ 課題

生徒の主体的な学びを実現できるように、発問を工夫して問いに基づく授業展開を実施することは課題である。授業単元を貫く問いを設定し、史資料を活用して生徒間で対話しながら授業を展開できることは理想である。生徒各自の興味や疑問、問題意識をもとに、生徒自身に問いをつくらせ、問題解決型の授業展開も考えられよう。コロナ禍であることを考慮する必要があるが、史資料にもとづいた言語活動を充実できるように、引き続き研究

を深めていきたい。

ICT機器の効果的な活用も課題だと考える。現在は映像資料や地図・絵画などの図版を活用する際に、プロジェクターで拡大投影して生徒の理解の一助となるように心掛けている。生徒用タブレットが配備されたこともあり、生徒それぞれのタブレットで映像資料や図版を確認させたり、予習内容をタブレットで配信して、タブレットで学習活動に取り組みせることも可能であろう。言語活動の充実も、タブレットに意見や感想を世界史に対して興味・関心を高め、より学習意欲が高まり、成績向上につながる世界史教育の在り方を引き続き模索したい。

### 第3 数学科研究報告

#### 1 はじめに

数学科の目標は数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することである。しかし基礎的な計算ができない生徒も多いので、途中式等を丁寧に記述するなどの対策が必要である。

#### 2 研究の目的（教科の視点で研究テーマ「主体的・対話的で深い学びの推進及びICTの適切な活用」に沿った目的を記述）

- (1) 数学でグループワークを行い、考え方・教え合いをして主体的・対話的で深い学びをする。
- (2) ICTを活用し、複雑なグラフを見せたり、動きの変化を見せ、想像力を養う。

#### 3 実践例

##### (1) 数学Ⅲ「ICTを用いて、回転体の体積を考える」

##### ア 目的

回転体の体積を立式して、回転体の体積を求める。

##### イ 授業実践

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 10分	<p><b>問題1</b></p> <p>曲線<math>y = \sqrt{x}</math>と直線<math>y = \frac{x}{2}</math>で囲まれた部分を<math>x</math>軸の周りに1回転させてできる立体の体積<math>V</math>を求めよ。</p>	<p><b>問題1</b></p> <p>○回転体の体積の図を考える。</p> <p>（GeoGebraで視覚的に確認する。）</p> <p>○回転体の体積を計算で求める。</p> <p>○グループで話し合い、答えを考える。</p> <p>○代表者が発表する。</p> <p>○解説を聞く。</p>	<p>GeoGebraを用いて、回転体がどのような形になっているか視覚的に確認できるようにする。</p> <p>グループワークをさせる。</p> <p>机間指導して、グループワークが円滑に進むように声掛けする。</p> <p>生徒に指名して、どのように考えて式を立式したか答えさせる。</p> <p>計算式を板書して、解説する。</p>
展開 40分	<p><b>問題2</b></p> <p>Oを座標平面の原点とする。曲線<math>y = \frac{1}{x}</math>上に点A(1,1), B(2, <math>\frac{1}{2}</math>)をとる。線分OA,OB,および曲線の弧ABで囲まれた部分を<math>x</math>軸の周りに1回転してできる立体の体積を求めよ。</p> <p><b>問題3</b></p> <p><math>x^2 + (y-2)^2 = 1</math>が<math>x</math>軸の周</p>	<p><b>問題2</b></p> <p>○回転体の体積の図を考える。</p> <p>（GeoGebraで視覚的に確認する。）</p> <p>○回転体の体積を計算で求める。</p> <p>○グループで話し合い、答え合わせをする。</p>	<p>GeoGebraを用いて、回転体がどのような形になっているか視覚的に確認できるようにする。</p> <p>グループワークをさせる。</p> <p>机間指導して、グループワークが円滑に進むように声掛けする。</p> <p>生徒に指名して、どのように考えて式を立式したか答えさせる。</p>

	りに1回転してできる回転体の体積Vを求めよ。	○代表者が発表する。 ○解説を聞く。 <b>問題3</b> 問題2と同様に行う。	計算式を板書して、解説する。 <b>【思考力・判断力・表現力】</b>
--	------------------------	---	--

ウ 課題

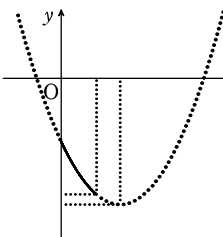
回転体の体積をICT(GeoGebra)を用いて、曲線がx軸周りに回転したら、どのような図形ができるか実際に見せたが、アニメーションをつけて、少しずつ回転する様子を見せた方がより効果的であった。

(2) 数学I「定義域が変化する2次関数の最大・最小」

ア 目的

2次関数の最大・最小を求める。

イ 授業実践

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	○2次関数の平方完成、グラフ、最大・最小。	○2次関数の平方完成・グラフの書き方について復習する。	○2次関数の最大・最小を平方完成をして、グラフを書くことによって、求めることができるように説明する。
展開 35分	<b>課題1</b> $a>0$ のとき次の関数の最大値を求めよ。 $y = x^2 - 6x + 11 (0 \leq x \leq a)$  <b>課題2</b> $a>0$ のとき次の関数の最小値を求めよ。 $y = x^2 - 6x + 11 (0 \leq x \leq a)$	(1) $a$ に具体的な数字を代入し、最大・最小の変化を確認する。 (2) $a$ の値が変化するにつれて、関数の最大・最小はどのように変化するか考え、まとめる。 (3) 課題2も同様に解く。	○発問して、指名して答えさせる。 ○机間指導をして、理解できていない生徒を指導する。 ○場合分けによって、最大・最小が変化することを、GRAPESでグラフを用いて説明する。 <b>【思考力・判断力・表現力】</b>
まとめ 10分	<b>確認1</b> $a>0$ のとき次の関数の最大値を求めよ。 $y = x^2 - 2x + 3 (0 \leq x \leq a)$ <b>確認2</b> $a>0$ のとき次の関数の最小値を求めよ。 $y = x^2 - 2x + 3 (0 \leq x \leq a)$	(1) 問題を解く。 (2) 隣同士で採点する。 (3) GRAPESで解説を聞く。 	○発問して、指名して答えさせる。 ○場合分けによって、最大・最小が変化することを、GRAPESでグラフを用いて説明する。 <b>【思考力・判断力・表現力】</b>



ウ 授業の成果

(ア) 授業の意図

今回扱った難しい問題を考えさせ、未知の問題に立ち向かう力を養わせる。

(イ) 工夫した点

問題に取り組みやすくするためにワークシートを配付した。また、問題をイメージしやすくするために図形的描画ソフト GRAPES を使用した。

(ウ) 授業を行った際の生徒の反応

定義域の値が変化するにつれて、グラフが変化の様子を GRAPES を使って見せて、ヒントを与えて授業を行った。グラフの変化が視覚的に見られて、わかりやすいという生徒が多かった。

(エ) アンケートの結果

質問 1 今回の授業は理解できましたか。

ア 理解できた。 11名 (58.9%)

イ まあまあ理解できた。 7名 (36.8%)

ウ あまり理解できなかった。 0名

エ まったく理解できなかった。 1名 (5.3%)

質問 2 GRAPES (ICT) を活用して、理解は深まりましたか。

ア とてもそう思う。 11名 (58.9%)

イ そう思う。 7名 (36.8%)

ウ あまりそう思わない。 1名 (5.3%)

エ そうは思わない。 0名

質問 3 今日の授業を通して、気づいたこと、その他、自由に記述してください。

- ・ 難しい内容ではあったけれど、図と実際に見て変化を知ることによって理解しやすかった。
- ・ GRAPES で数字を当てはめて、グラフの形を変えて、最大値、最小値を求めるのはとても簡単にできた。
- ・ 普段は与式に数字を1つずつ当てはめてやって大変だったので、とても分かりやすかったしやりやすかった。
- ・ ICT のグラフも分かりやすいけど、黒板に書くグラフのほうが見やすいと思った。
- ・ 家で勉強するとき GRAPES を使ってみたいと思った。

ウ 課題 参観していただいた先生からの指導・助言

- ・ 端のほうが見づらかった。
- ・ 「場合分け」という大事なキーワードは、板書するなどして意識づけするべき。
- ・  $a$  の値の変化を1刻みで変化させていたが、0.1刻みでも良いのでは。
- ・ グラフが見づらい所もあったので、色などを使い、強調するべき。
- ・ 自分が発問を投げかけてばかりで、生徒にグループワークをさせて考えさせるべき。

(3) 数学A「組合せを理解する」

ア 目的

ICT を利用し、直感的・視覚的に数学的な考え方を理解する

イ 実践

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	○ $nCr$ の性質の復習 問 ${}_{20}C_{18}$ の値を求めよ。	○ ${}_{20}C_{18}$ の値を求める。  ○ ${}_{20}C_{18} = {}_{20}C_2$ を理解する。	○生徒にどのように解いたか問いかけて、2通りの解き方があることに気付かせる。 【思考力・判断力】 ○パワーポイントのアニメーションを利用し、選ぶ個数を決めることと選ばない個数の関係を視覚的に理解させる。



			【表現力】
展開	<p>○組合せの考え方を利用する</p> <p><b>例題</b>6 正八角形の8個の頂点のうち、3点を結んで三角形を作るとき、三角形は何個作れるか。</p> <p><b>練習</b>27 正六角形について、次の数を求めよ。</p> <p>(1) 三角形の個数 (2) 四角形の個数 (3) 線分の本数 (4) 対角線の本数</p>	<p>○正八角形を図示する。 ○具体的に3点選び、実際に三角形を図示する。</p> <p>○<b>練習</b>27を解く。</p>	<p>○図示をすることで視覚的に理解しやすいことを説明する。</p> <p>○タブレットでGeoGebraを利用し、実際に3点を選ぶことで三角形ができることを理解する。また、選ぶ3点によって様々な三角形ができることを直感的に理解する。</p> <p>【判断力】</p> <p>○<b>練習</b>27を解くように指示する。</p> <p>○机間指導を行い、理解できていない生徒を指導する。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○(4)について考え方を話し合わせる。</p> <p><b>数学的な見方・考え方</b></p> <p>○(4)について、(3)の線分の本数から多角形の辺を消すことで対角線だけが残ることをタブレットのGeoGebraを用いて解説する。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>
	<p><b>例題</b>7 6人の大人の中から3人、4人の子どもの中から2人を選んで5人組を作るとき、何通りの組が作れるか。</p> <p><b>練習</b>28 7人の大人の中から3人、6人の子どもの中から3人を選んで6人組を作るとき、何通りの組が作れるか。</p>	<p>○図示をして、視覚的に捉える。</p> <p><b>練習</b>28を解く。</p>	<p>○<b>例題</b>6をパワーポイントのアニメーションを利用して説明する。</p> <p><b>数学的な見方・考え方</b></p> <p>【表現力】</p> <p>○机間指導を行い、理解できていない生徒を指導する。</p> <p>○早く解けた生徒に問題集の問題を解くように指示する。</p> <p>【知識・技能】</p>
まとめ	<p>○本時のまとめ</p> <p>○宿題の指示</p>	<p>○本時のポイントを確認する。</p>	<p>○黒板のまとめを利用して、本時のポイントを確認する。</p> <p>○問題集の問題を次回までに解いてくるように指示する。</p>

#### ウ 課題

パワーポイントやGeogebraを用いて、直感的に生徒に理解させることはできた。しかし、解説では私が話しすぎてしまい生徒自身が探究するタイミングを失くしてしまっているのではないかと、指摘をいただいた。生徒自身が活動を行い、自身で探究する授業を1人1台タブレットを用いて行いたい。

#### 第4 外国語科研究報告

##### 1 はじめに

本校設定のCAN-DOリストの1年Readingで、「教科書の本文を読んで、概要や要点を捉えることができる」ことを設定している。また他の技能や領域では、身近な話題について話す事ができることを設定している。3年生では教科書の本文について、速読や精読など目的に応じた読み方ができることや、社会性のある話題について、自分の意見と理由を英語で書くことができることなどを目標としている。

英語に対して苦手意識を持っている生徒が多く、どう英語を勉強させるかが一番の課題である。教科書だけでなく洋楽や洋画も教材に使い、英語を身近に感じてもらえるようにしている。

また、今年度の秋から生徒に1台ずつタブレットが配布された。そのタブレットをどのように授業で使用していくかもこれからの課題である。研修や情報共有をつうじて使用例を学び、それを生徒に還元していきたい。

##### 2 研究の目的

- (1) 生徒が積極的に学び、自分で考え英語を書いたり話したりする。
- (2) ICTを使用し、授業の内容理解を深めたり、発表をしたりする。

##### 3 実践例

###### (1) 英語コミュニケーションⅠ

###### ア 目的

教科書の本文を読んで、概要や要点を捉える。リテリング（「再話」、「story telling」）をとおして、内容をさらに深めさせる。

###### イ 授業実践

##### 評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①It is～for＋〈人など〉＋to 不定詞・前置詞句による修飾・現在分詞／過去分詞による修飾を用いた文の構造を理解し、実話について、情報や考え、気持ちなどを、適切に話して伝え合ったり伝えたりする技能を身に付けている。	①クラスメートにわかるように、読んだ物語の内容について、情報や考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して話して伝え合ったり伝えたりしている。	①クラスメートにわかるように、読んだ物語の内容について、情報や考え、気持ちなどを、基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して話して伝え合ったり伝えたりしようとしている。
内容のまとめ	①読むこと、書くこと、話すこと	①話すこと、聞くこと	①話すこと、聞くこと
評価方法	①活動の観察、ワークシート	①活動の観察、ワークシート	①活動の観察、ワークシート

（「主な評価の観点」の（ ）内の数字は、「9. 本時の評価規準」における三つの「評価の観点」を示す）

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
5分	1. リスニング (内容の復習)	・教科書を見ながら音声を聞き、内容を思い出す。	・次にリテリングがあることを伝え、内容を思い出しながら聞くように指示する。	/	/

10分	2. 日本語でリテリングを考える	・ワークシートを使いながら、日本語で本文のリテリングを書く。	・単なる文章の直訳にならないように、適宜助言をする。	・本文を適切に日本語でまとめられているか。(1)	活動の観察 ワークシート
5分	3. 日本語のリテリングの確認	・書いた日本語のリテリングをペアで確認する。	・よい表現があれば参考にしてよいこと、内容が違う場合は指摘することを指示する。	・日本語のリテリングを伝えているか。(2、3)	活動の観察
10分	4. 英語でリテリングを考える	・ワークシートを使いながら、英語で本文のリテリングを書く。	・本文の言い換えに挑戦するように、声をかける。	・本文を適切に英語でまとめられているか。(1)	活動の観察 ワークシート
15分	5. 英語のリテリングの発表	・グループに分かれ、英語のリテリングを発表する。 ・発表者のリテリングの評価をする。	・内容が伝わるように抑揚や速度、声の大きさに気を付けるように指導する。	・英語のリテリングを伝えているか。(2、3)	活動の観察
4分	6. 振り返り	・自分のリテリングがどうだったかワークシートに記入する。	・次回のリテリングのときに改善したいことはなにか意識させる。		
1分	○本時のまとめ	・Teamsのアンケートに答える。(後日)	・肯定的なコメントを心がけ、適切なフィードバックを与えるようにする。		

#### ウ 課題

リテリングは途中で日本語でのリテリングを入れて段階を踏み、英語で書きやすくなったと思う。しかし、今回は生徒の意見や考えを書く機会がなかったので、今回は最後に本文に対する感想など自分の考えを英語で書くようにしたい。また、英語でのリテリングで文法の間違いがいくつかあった。受動態など、生徒がよく間違えそうな文法事項を、英語を書く前に復習する必要がある。

#### 第5 ICT機器の活用について

##### 1 校内研修

##### (1) ICT支援員による教職員向け研修

7月25日(月)午後3時から、ICT支援員による希望者対象のMicrosoft Teamsの使い方の説明会を開催した。しかしまだ生徒用タブレットパソコンの配付が行われておらず、また職員の教育系タブレットパソコンにもMicrosoft Teamsがインストールされていないことが多く、十分な効果が得られなかった。

##### (2) デジタル指導部による教職員向け研修

11月24日(木)の職員会議後、希望する職員を対象に本校のデジタル指導部による

Microsoft Teams の使い方に関する研修が行われた。参加者は実際に教育系タブレットパソコンで操作をしながら、基本的な使い方について説明を受けた。

## 2 環境整備

### (1) 生徒用タブレットパソコンについて

タブレットパソコンの活用について昨年度から検討を重ね、ルール等を策定した。今年度の秋に生徒にタブレットパソコンを配付し、授業等での活用を開始している。活用の度合いは教科・科目や教員によって差があり、手探り状態ではある。しかし全体としては先に授業で使った教員がそのノウハウを伝えるなどして、徐々に活用を進めている。

### (2) 環境整備について

タブレットパソコンの充電保管庫はHR教室以外の教室に設置している。またプロジェクタやスクリーン、暗幕などの整備も進んできている。ただ回線速度が十分ではなく、クラスの全員が一度にインターネットに接続するなどの運用は困難である。

### (3) 現状と課題

近年急速に環境整備が進んでおり、ICT機器を効果的に活用する方法について教員と生徒がともに学ぶ必要がある。バッテリー容量の問題、回線速度の問題等もあるが、限られた資源を使ってよりよい教育を目指して試行錯誤する必要がある。当初は授業準備に余分な時間がかかったり、思いどおりにならない場面もあると考えられるが、できるところから取組を進めていかなければならない。

## 第6 授業研究週間について

本校では年間2回2週間ずつを授業研究週間として、授業参観・意見交換の機会となるように設定している。授業参観後には簡易な記録用紙の提出を求めている。今年度は6月6日から6月17日までの期間で38回、10月24日から11月4日までの期間で36回の授業参観が実施された。職員が互いの授業を参観し、意見交換を活発に行うことで、指導方法（ICTの活用方法を含む）などの研究・改善につなげることができた。

## 第7 連絡協議会について

尾中地区におけるあいちラーニング推進事業の主管校として、重点校（一宮西、木曾川、一宮商業）の担当者を招いて連絡協議会を2回開催した。

### 1 第1回連絡協議会

各校の現状報告及び研究計画について協議を行った。

### 2 第2回連絡協議会

研究成果及び研究報告書、次年度の計画について連絡・協議を行った。

## 第8 研究のまとめ

本校では校務のIT化は徐々に進んでいたが、授業に活用することが不十分であった。しかし、生徒用タブレットパソコンの配付など急速に環境整備が進んできた。従来の指導法のほうが有効な場面も多いが、他方ではICT機器を活用することで効果的な学習を実現できることも多い。特に「主体的・対話的な深い学び」を目指すためには、生徒自らがICT機器を活用して情報を調査・集約したり、友達や教員と相談したりしながら考えを深めることが役立つ。本校は今年度から尾中地区における「あいちラーニング推進事業」の主管校を務めることとなり、外部の講師を招いて研究協議会を開催した。外部の方に本校の取り組みを評価・助言していただき、新たな気付きを得ることができた。また学校評議員にも本校の取り組みを報告し評価していただいた。今後も各教員、各教科がICT機器を活用するなどの新しい試みにも積極的に取り組まなければならない。しかしICT機器の活用自体を目的とするのではなく、生徒の「主体的・対話的な深い学び」のための手段であることを忘れてはならない。今後もICT機器を有効に活用する試みを続けるとともに、その効果を冷静に検証することも必要である。

※ 本研究報告書は、令和5年3月23日までに県教育委員会に提出する。